

早稲田商学第 451・452 合併号

2 0 1 8 年 3 月

## 消 息

### 辻山栄子先生をお送りするにあたって

辻山栄子先生のご退職にあたり、商学部教員を代表してご挨拶させていただきます。

辻山先生は、1971年に早稲田大学第一商学部を卒業され、その後、東京大学大学院経済学研究科に進学され、同博士後期課程単位取得後、1977年に茨城大学人文学部に奉職されました。その後、武蔵大学経済学部を経て、2003年から商学部で教壇に立っていらっしゃいます。この間、1993年に「所得概念と会計測定」という論文により、東京大学より博士号の学位を取得されています。

大学関連の役職としては、武蔵大学経済学部長、本学商学学術院総合研究所長そして大学院商学研究科長等をお務めになられました。学外におきましては、数多くの役職をお務めですが、政府関連の主なものだけご紹介しますと、大蔵省企業会計審議会幹事・臨時委員、金融庁企業会計審議会委員、同固定資産部会長、国税庁国税審議会会長、国際会計基準審議会基準諮問会議委員等をお務めになられました。学会におきましては、日本会計研究学会理事・評議員、米国会計学会財務会計基準委員会メンバーをお務めになるとともに、会計研究学会太田賞、日本公認会計士協会学術賞を授与されています。また、NTT ドコモ、資生堂、三菱商事など、我が国を代表する企業の監査役等も務めになりました。

研究業績につきましては、『所得概念と会計測定』など9冊のご著書の他、数多くの論文等を執筆されています。川村先生の消息記事にあるとおり、先生のご研究の特徴は、伝統的な会計理論研究を追究された点にあるとのこと。具体的には、「資本」「利益」といった、会計学・財務会計論における中心的なテーマに取り組んでこられました。とくに利益の概念は、会計学にとどまらず、経済学、税法などとも関連し、理論的にはもちろん、実務面でも大変重要な概念である点は、会計の隣接分野を専門とする私も、常々聞くところでは、

また、時価概念、発生主義会計等、会計基準設定上の主要課題についてつねに発言さ

れ、国際財務報告基準（IFRS）に関連して、会計学研究と基準設定実務の両面において、強い影響力を発揮されてきたと仄聞しております。本年2月に実施された先生の最終講義においても、国際会計基準審議会（IASB）における議論の迷走を一刀両断のもとに切り捨てる発言をされるお姿を拝見して、同審議会でのご発言の様子が目に浮かぶような気がしました。

他方、教育者としての先生は、学部および大学院のゼミでのご指導を通して、100名を超える公認会計士を育成されるという、多大な貢献をされました。また、会計学界における女性研究者の草分けとして活躍されるとともに、今後の活躍が期待される数多くの優秀な研究者・大学教員を育成・輩出されることで、学界にも貢献されました。

生活環境、医療の発達により、近年退職を迎えられる先生方は概して若々しいのですが、そうしたなかでも辻山先生はとくに若々しいと思われる方が多いと思います。6～7年前でしたか、すでに退職された商学部の某先生、辻山先生と私がエレベータに乗り合わせた際、某先生が「辻山先生は若いですね。まだ40代？」と尋ねられていたほどです。

このように若々しい先生ですが、大学の規程に沿って、この3月をもって商学部の教壇を去られます。先生のこれまでの早稲田大学とくに商学部に対するご貢献に深甚なる感謝の意を表するとともに、今後ともご健康に恵まれ、研究をはじめとする活動に携わられることを祈念して、私の送別の辞とさせていただきます。

早稲田商学同攻会長

藤田 誠